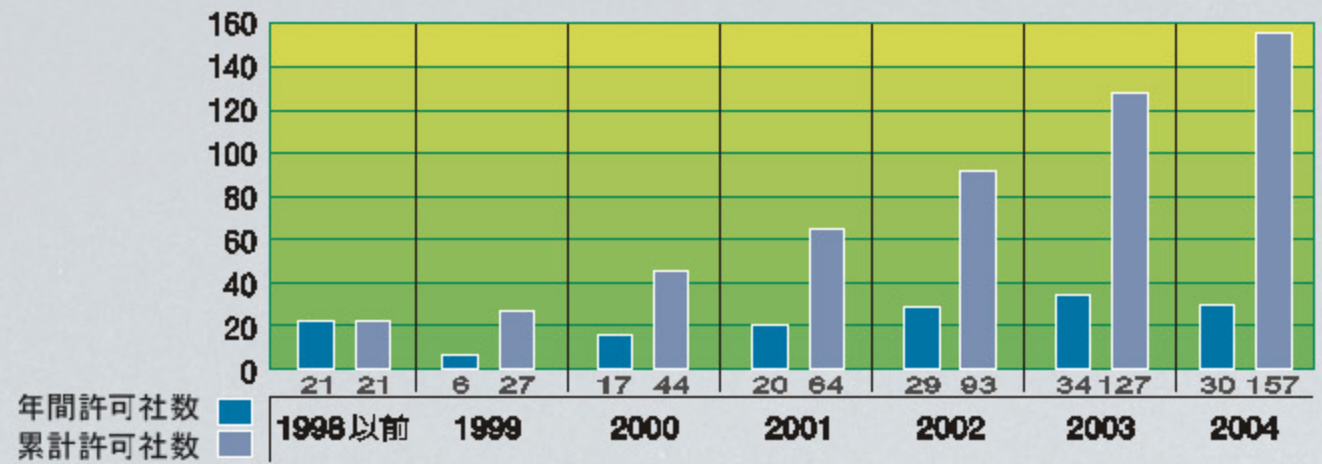
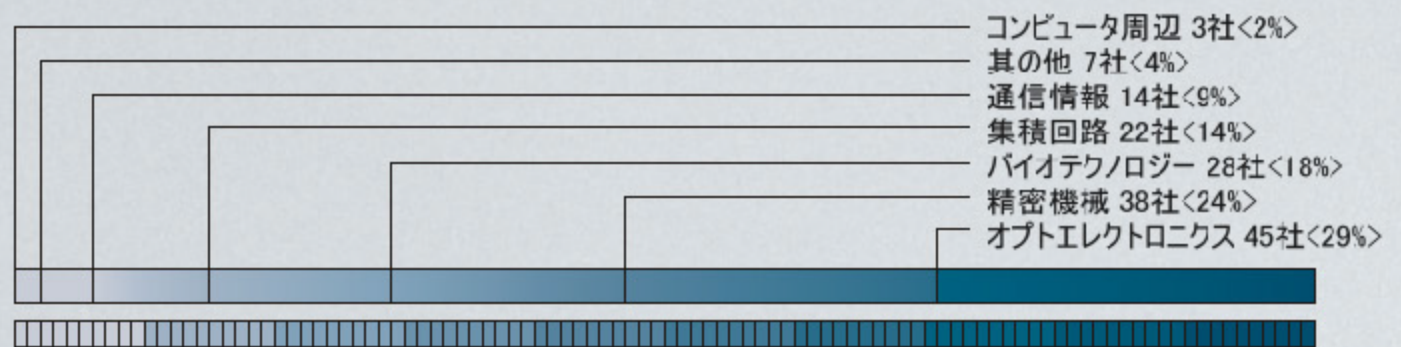


産業集積の形成

2004年に新たに30社が駐在許可され、申請許可投資総金額1,046.4億円増え、累計許可駐在企業157社、累計投資総額4兆2,086.1億円に上る。オプトエレクトロニクス45社、精密機器38社、バイオテクノロジー28社、集積回路22社、通信情報14社、コンピュータ周辺3社、その他7社、産業集積の雛形がここに形成され、より一層の産業競争力を発揮できるかと言えよう。2004年末まで、駐在企業の中で、既に68社が量産を始め、18社が工場建設し始めている。



> 歴年累計許可社数



> 2004年までの累計各産業社数

オプトエレクトロニクス集積

南科は国内におけるTFT-LCD産業が最も集中している区域であり、川上の基盤部品には、ガラス基板・CCFL(冷陰極管)・集光パーツ・バックライトモジュール・カラーフィルター・偏光板やドライバICなどがあり、川中の液晶パネル、川下のLCD-TVにいたるまで全てがここに包括されており、2004年には45社もの企業が駐在許可されている。南科のオプトエレクトロニクスの先駆として、園区開発当初より工場設置していた奇美(CMO)と瀚宇彩晶(HannStar Display)などのパネル製造企業や日本資産投資企業である川上の基盤部品材料企業等の他に、2004年には国際的に有名な米国企業3Mとアメリカ薄型設備製造企業による工場建設投資が見られた。国際的に有名企業による南科工場設置により、南科は今後台湾における世界的なフラットディスプレイパネル産業の先頭として、その重要な役割を担っていくであろう。

2004年オプトエレクトロニクス営業高5,394.6億円、2003年に比べ成長率87.9%。

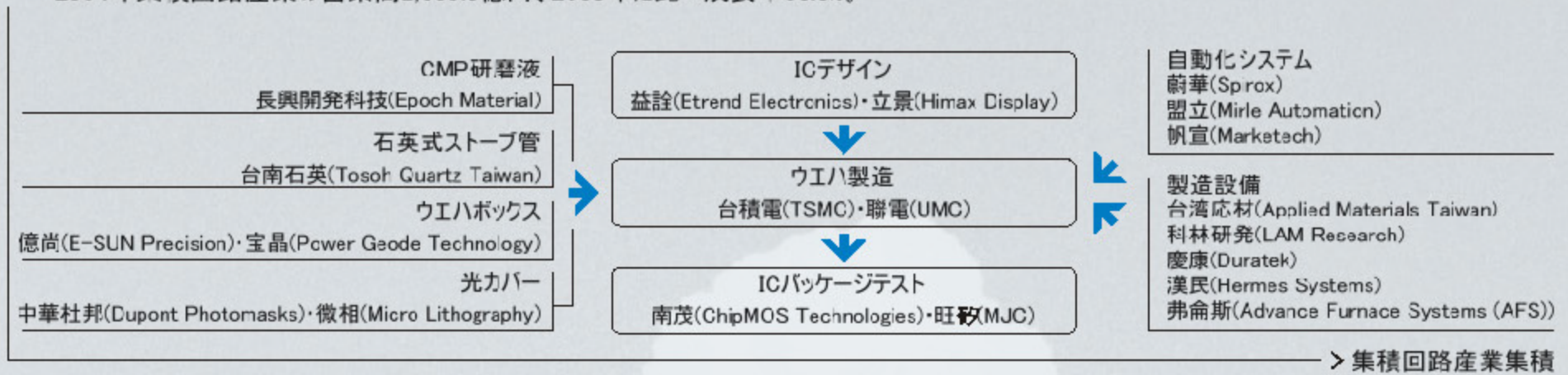


> オプトエレクトロニクス集積

集積回路産業集積

南科集積回路産業は2004年までに22社申請許可されており、その中、ICデザイン・ウエハ製造・パッケージテスト・集積回路設備を含む。集積回路産業に必要なサプライチェーンができており、その上、台積電(TSMC)は12インチウエハ工場2基を完成されており、第一基目は既に量産し始めており、第二基も内部設備環境を整いつつある段階にある。また、聯電(UMC)の12インチウエハ工場も量産し始めており、その上、南科に中央研究センターをも設立している。

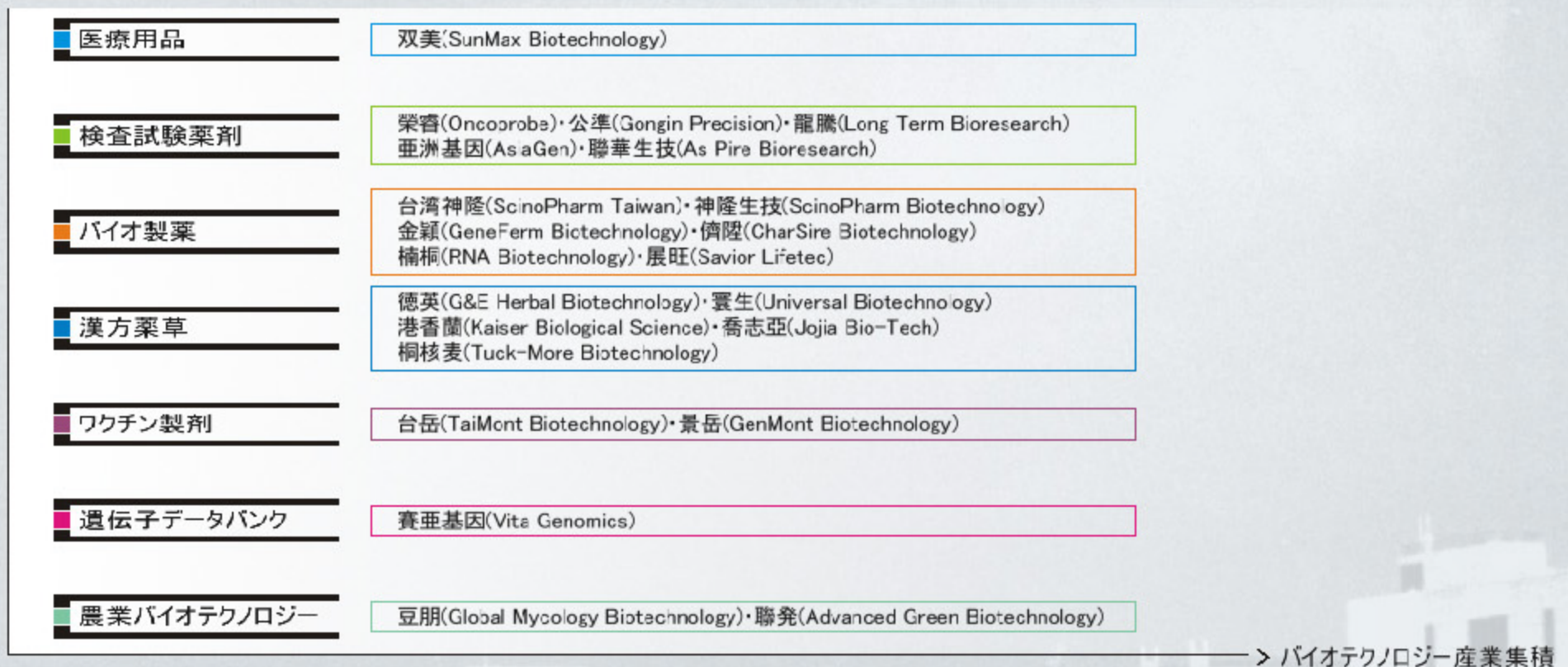
2004年集積回路産業の営業高2,660.8億円、2003年に比べ成長率36.5%。



バイオテクノロジー産業集積

南科は新たにやってくるであろうバイオテクノロジーの時代のために、産業界・農業委員畜産試験所・南台湾各大学・中央研究員南部バイオテクノロジー企画センター・アジア野菜研究センター等、産業・研究機関の研究開発資源をまとめるだけでなく、高鉄沿線に45ヘクタールものバイオテクノロジー回廊プランや8ヘクタールものバイオ専門園区をも計画している。2004年5月にバイオテクノロジー製薬生産基準であるcGMP(現実施優良薬品製造基準)に達している標準工場建設の完成を予定しており、バイオテクノロジー企業の進駐を呼びかける。この他、高雄バイオテクノロジー園区(高雄市内にある)の設置も政府行政院より許可され、高雄園区においてもバイオ医療技術機材産業専門園区を企画しており、今後南科が南台湾のバイオテクノロジー産業の中心となるよう目指している。2004年まで既に相关企业28社が駐在している。

2004年バイオテクノロジー産業の営業高は37.1億円、2003年に比べて118.3%成長している。



其他産業の概観

南科に駐在している企業の中に通信情報システムソフトウェア産業に関わる企業は14社あり、オプトエレクトロニクス関連部品・無線ブロードバンドファームウェア開発・ビデオコーディングソフトウェア開発・マイクロ波コンポーネント等がある。

一部の企業は科学園区の優れた研究開発環境を利用し、優秀な人材を引きつけ台湾国内では欠乏している川上の基盤部品原材料の開発に当たらせている。例えば、光産業に必要なセラミックパウダーと精密機器粘着剤材料等である。この部分において台湾国内は言わば産業開発の初期段階にあり、もし開発に成功すれば、国内にある膨大な電子製品製造企業の製造コストを引き下げることができ、更に国際的な競争力をも引き上げることになる。